

# No177185 インフルエンザウイルスの評価結果(抜粋)

## 11. 結果

インフルエンザウイルスに対する試験結果を表 1 及び図 1 に示した。

試験に使用したウイルス濃度(感染価)は  $10^{8.1}$ TCID<sub>50</sub>/0.1mL であった。

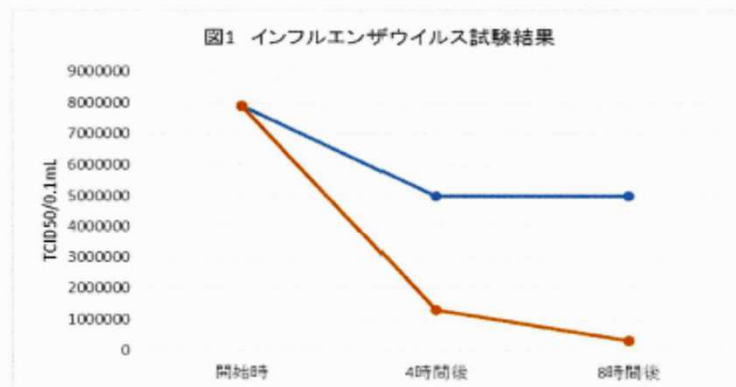
対照区では試験開始時から開始後 8 時間までの間に若干のウイルス濃度の減少がみられた ( $10^{6.9}$ → $10^{6.7}$ TCID<sub>50</sub>/0.1mL)。

試験区では、開始後 4 時間で  $10^{6.1}$  TCID<sub>50</sub>/0.1mL (74%減少;対照区比)、開始後 8 時間で  $10^{5.5}$  TCID<sub>50</sub>/0.1mL(94%減少;対照区比)となり、ウイルス濃度の減少がみられた。

表 1 インフルエンザウイルス試験結果(TCID<sub>50</sub>/0.1mL)

区	試験開始時	開始後 4 時間	開始後 8 時間
対照区	$10^{6.9}$ (7900000)	$10^{6.7}$ (5000000)	$10^{6.7}$ (5000000)
試験区		$10^{6.1}$ (1300000)	$10^{5.5}$ (320000)

試験使用ウイルス濃度:  $10^{8.1}$ TCID<sub>50</sub>/0.1mL



## 12. 考察

今回、試験品である CCFL 抗菌ライト ダウンライト(試作品)(CCFL-DLWH(仮型式))照射による、インフルエンザウイルスに対する不活化効果試験を実施した。

その結果、インフルエンザウイルスに対しては、4時間の照射で74%、8時間の照射で94%の不活化効果があることが判明した。

以上の結果から、CCFL 抗菌ライト ダウンライト(試作品)による照射により、インフルエンザウイルスの減少傾向が確認された。